

詩集 僕の懐中時計

(扉のむこうの夢の中へ)



飛鳥 圭

はじめに

はじめに

ヨーロッパから続く歴史のある懐中時計、今なお理にかなった使用方法が引き継がれている。少数ではあるが鉄道関係者や看護師、料理人、学芸員、アーティスト、D-MAT要員、サントクリエイターばかりである。

作家や詩人の場合はどうかについては不明であるが、アンティークな趣味によってポケットが閃いたり、顔の前で時計を下げて見ることや上蓋を開けた動作をしたとたんアイデアを思いついたりする場合もなきしにもあらずである。

遙か彼方では貴族社会で使われ、歴史に残る人物ではリンカーン、チャーチル、日本では当時、洋装をも好んで着用していた新撰組副長の土方歳三、岩倉具視、昭和天皇も使用していたのである。

懐中時計、今でも男性用のズボンにフックポケット（懐中時計用ポケット）が付いている場合がある。そしてそうとは知らずに煙草を吸ってる時このポケットにジッポのライターを入れていた記憶があるのだ。

懐中時計、詩を書く僕にとっては貴公子的な持ち物のような気がしていて、大好きだしいつも一緒にいるだけで詩が浮かんできそうなのである。

そしていい詩集が出来ることを願っている。

飛鳥 圭

もくじ

もくじ

I : 今も懐中とけい

- * 懐中とけい・・・3
- * 愛しき手紙・・・4
- * なごり雪・・・5
- * 22歳になった君へ・・・6
- * 息ができること・・・7
- * 運動会・・・8
- * 恋は薬なんだ・・・9
- * 愛しき日々・・・10
- * 朝の祈り・・・11
- * 雨の日は・・・12
-
- * 気にしてる・・・13
- * 昔は強かった・・・14
- * 雲ながるる朝・・・15
- * 季節に埋もれて・・・16
- * 刺・トゲ・とげ・・・17
- * 残り月・・・18
- * あでやかなりし・・・19
- * 働くって・・・20
- * 冬が呼ぶ・・・21
- * 過ぎし日・・・22

II : ひかりの彼方に

- * 白い街・・・23
- * 感動と夢と・・・24
- * 雲を見つめて・・・25
- * 光への彼方に・・・26
- * 雪の道・・・27
- * 昔の懐かしい音色・・・28
- * 良い知らせ・・・29
- * 心もよう・・・30
- * フロンティアの森・・・31

- * 良いことは・・・ 3 2
-
- * 君と歩いた道・・・ 3 3
- * 昔は今・・・ 3 4
- * キラキラきらり・・・ 3 5
- * 君を待つ・・・ 3 6
- * 明日がある日・・・ 3 7
- * しあわせは・・・ 3 8
- * 今日は雨・・・ 3 9
- * 春の風は・・・ 4 0
- * 夢を訪ねて・・・ 4 1
- * 君が待つ春・・・ 4 2

Ⅲ：素敵な夏もよう

- * 梅の木・・・ 4 3
- * 忘れたところに・・・ 4 4
- * 前を見て・・・ 4 5
- * 近くて遠い・・・ 4 6
- * 春の夜・・・ 4 7
- * さくら・・・ 4 8
- * 雨の日も・・・ 4 9
- * 夢のなかへ・・・ 5 0
- * いつものあの娘・・・ 5 1
- * 男性って・・・ 5 2
-
- * ひとつひとつが・・・ 5 3
- * 薫風ともに・・・ 5 4
- * 花のかんざし・・・ 5 5
- * 親類縁者は今・・・ 5 6
- * 1, 2, 3, 4 って・・・ 5 7
- * 平和への約束・・・ 5 8
- * あのとき・・・ 5 9
- * 夏休み・・・ 6 0
- * 夏のかおり・・・ 6 1
- * 良いこと・・・ 6 2

Ⅳ：郷愁をさそうような

- *ふるさと・・・63
- *苦難・・・64
- *なつ、夏そして秋・・・65
- *挑戦しよう・・・66
- *秋色に染まる日々・・・67
- *良き日に・・・68
- *僕からあなたへ・・・69
- *ともだち・・・70
- *ようこそ・・・愛しき君へ・・・71
- *仮面をつけて・・・72
-
- *懐かしい顔・・・73
- *集い・・・74
- *不器用・・・75
- *生きる・・・76
- *いたわりの言葉・・・77
- *ステキな女性・・・78
- *目標・・・79
- *寒い朝に・・・80
- *占い・・・81
- *天秤座の女性（ひと）・・・82

V：なぜだか礼拝の想い

- *冬・・・ふゆ・・・83
- *ある日・・・84
- *冷たい風・・・85
- *新しいこと・・・86
- *続・・・ふるさと・・・87
- *ともしび・・・88
- *安らぎの中に・・・89
- *かがやく日に・・・90
- *人はひと・・・91
- *道行けば・・・92
-
- *昔はこうだった・・・93
- *3月の詩・・・94
- *そよ風のささやき・・・95

- *自分らしさ・・・96
- *未知の土地・・・97
- *自分に負けない・・・98
- *5月の風は・・・99
- *祈り・・・100
- *続・・・祈り・・・101
- *懐かしき頃・・・102

懐中とけい

－懐中とけい－

上着のポケットからや
ズボンのポケットからや
無造作に出してカバーを開ける
パターンって音がするような
何故かそんな気がするのである

不思議なことなのだが
夢の中への扉を開けるように
指針を伺うような視線が
謎めいていい感じに見えるだろう

いい時計ね
似合ってるよ・・・
時間を大切にされてるようで
その仕草って素敵だよ

僕の懐中時計
いつも何処でも
一緒だよ
君と一緒にのときもね

愛しき手紙

愛しい人からの手紙

今までに愛しい人からの手紙なんて片手ほどの数しかありませんが。その中でも愛しあった人の手紙は何故だか捨てずに今も残しているのですがついつい懐かしくなってどんな内容だったか見ようにも何処にしまったのか・・・忘れてしまっている。

突然にタイムスリップして昔に帰れたらどうなのであろうかと考えることがあります。喧嘩別れしたのじゃなく・・・お互いのわがまま等意味もない理由だっただと思っっている。縁がなかったと言えればそれで終わっちゃいますけど！最初に会ったときの縁だけは生涯忘れないでいようと思っっているのです。何度も会えなくとも人との縁は大切にしたいものです。

—愛しき手紙—

きれいな字で

書かれた手紙にこしたことはない

文は人なりって言うけれど

まさにその通り

書いた人の人柄と性格が

分かってしまう

口で言うことと違って・・・

後々までも残ってしまう

でも心を込めて書いた手紙は

相手の心をとらえて

いつまでも心のなかに

止まってしまう

口では言えない

大切な想い

愛しき手紙は

心まで豊かにするのです

なごり雪

—なごり雪—

なごり雪を
唄う君の
後ろ姿が愛しくって
抱きしめてしまった

どうしたのって
君はふりかえった

歌の詩が
懐かしくって
悪いことしたね
唄ってるのに
ごめんね

いいのよ
今日という日は
何故か
人恋しくなるよね

ところで
私可愛い？
私きれいになった？

22歳になった君へ

—22歳になった君へ—

22・・・

僕の好きな数字

昔・・・誰かの

背番号だった

サッカー選手時代に

つけたことのある

ユニホーム

洗って干したとき

風に揺れて

話しかけてくるんだ

22って

良い数字だね

そうそう・・・

22歳になった女性に

出会うと幸運なことが

ありますよ

そうなんだ

だから・・・

今日って言う日が

あるんだね

22歳になった君へ

また夢の中で

お会いしましょうね

息ができること

僕のように呼吸器に疾患があると致命的な状況になる可能性が
あるため・・・例年、インフルエンザ予防接種だけはしています。
喘息の発作で呼吸困難を経験していると・・・ホント呼吸が出来ないって
大変なことなんです。
なんか生きるって・・・すごいことなんだって思っています。

－息ができること－

今日は秋晴れ

青い空にむかって
大きく口を開けて
いっぱい空気を
吸ってみる

金魚が水面に
口を出して
パクパクしてる

そんな感じの
呼吸が苦しい
ときではなく

こんな良い日は
空気までが
肺いっぱい
入ってくるよ

息ができること
生きてるって
ことなんだ

運動会

礼拝に来たとき、近くに小学校があるのでしょうか？
運動会のかけ声がスピーカーから流れて来ました。

おじいさんもおばあさんも一緒に・・・なんて！
微笑ましい情景が目の前に広がってきます。

ー運動会ー

ソーラー
ワッショイ
よいしょ
わっしょい
綱引きだろうか

スピーカーから
流れるかけ声
近くの小学校かな

何故か・・・
微笑ましい情景が
浮かんでくる

秋のイベント
運動会
そしてかけ声では
秋祭りも
負けてはいない

賑やかで
楽しい秋なのだ
今日は運動会だよ

恋は薬なんだ

—恋は薬なんだ—

恋をしてるって
人のなかには
病人はいないような

たとえ病に
臥せていても
生への執着が
強くて・・・
生き長らえるって

そんなこと・・・
どこかで聞いたような

会いたいばかりに
気持ちだけでも
元気になって
それがホントになって
健康になったって

こんな話も・・・
なきしにもあらずで
うれしい事になったり

そんなことは
ないかも知れないけど
ひそかに信じてるんだ
恋するってことは
薬なんだと

愛しき日々

ー愛しき日々ー

10月のあの日
涙したあの日
二人して山へ行く

紅葉を見て
鳥と遊んで
風を感じて
心に届けって
声を出して叫んだ

今日も元気で
頑張ってるよって
二人して笑いあった

愛しき日々
いつも歩いた
いつか通った
あの人と手をつないで
今日まで生きていて
良かったと

二人して涙した
愛しき日々よ
10月になると決まって
思い出してしまう
今日の日

朝の祈り

ー朝の祈りー

秋なかば・・・

朝の小鳥のさえずりが
響きわたる
住宅地にある町の教会

説教のメッセージの
BGMとなりて
礼拝の静けさのなかに
ひときわ冴えわたる

少し寒くなった朝も
こうして
礼拝できることが
明日の道を開き
今日の想いを
満たしてくれるのだ

いざ・・・

いざ進まん
明日（あした）の道を
苦難はあるも
前だけを見て進むのだ

雨の日は

今日は雨、秋の雨は少し冷たくって余計に人恋しくなってきましたが・・・皆さんは如何ですか？

こんな日は思い切って外に出て都会の空気を胸一杯に吸って雨の歌を口ずさむのも良いですよね・・・。

そして・・・例の相合い傘が素敵です。

やはり映画のシーンみたいに身体を寄せ合って歩くってこの季節の最高の演出ですよね・・・ホントあやかりたいです。暑いときは・・・こんなことは出来ないものね（笑）

—雨の日は—

ただ何となく憂鬱で
気持ちも不機嫌
でもこんなときこそ
そうなんだ

大好きな女性と
連れ立って
街へ繰り出そう

どうしようもない
嫌な気持ちも晴れて
心はウキウキ

互いの身体に
手を回して
身を寄せ合って
語るのも
雨ならではのこと

さあさあ
今から出かけよ
御堂筋なんかへ
雨も日は・・・
楽しいことが

いっぱいあるのです

気にしてる

— 気にしてる —

特別に気にかけてもらっていると
何故かうれしい

孤独死って嫌でもないけど
誰かに・・・基本看取って欲しい

生まれた時も一人
だから・・・
死ぬときも一人なんだから
孤独死ってことは
当然と思ってた

ご一緒出来るなら
大好きな人にとって思うよね

まあまあ
縁起でもない話は置いとこう
気にしてくれてありがとう

昔は強かった

ー昔は強かったー

サッカーの試合で
翌日は階段を
上るのが大変だった
腹筋も痛くっても
笑うことが苦痛だった

それでも次の日は
もう治っちゃった
そんな感じ・・・

今は翌日は何ともなく
こんなの朝飯前って感じが
3日後にしっぺ返しが

腰が痛くって
腹筋が痛くって
洗顔はおろか
ズボンも穿くのがやっとな

情けないより
歳を重ねたことに
悔しさが・・・
昔は良かったと
思うのである

そうだ・・・
毎日筋トレなんか
しなくっちゃって
考えたり・・・
頑張ってみるか
明日からでも

雲ながるる朝

夢というところ？

6時に目覚め・・・またまた、すーっと眠ってしまって！

こんな時に何度か夢を見てしまうことがあります。

好きな人と・・・一緒にいてて、いい雰囲気・・・。

いいぞいいぞ・・・さあさあ夢とはいえこの先どんな展開に！

期待感いっぱいなんですけど・・・だいたいはこのあたりで

終わってしまって・・・ほんとうに目覚めが悪いたらありゃしない。

これじゃ恋の詩なんか書けたもんじゃありません（笑）

皆さんは・・・いい夢を見て下さいね？

ー雲ながるる朝ー

風の強い朝

夏の忘れ物

風鈴の音が鳴り響く

そして雲が

飛ぶように

流れている

こんな朝は

案外青い空になるし

日だまりは暖かい

陽射しも

この季節にしては

強いほうだ

雲ながるる朝

まだ秋なのに

僕は今・・・

何をしようと

してるのだろうか

じっと瞳を閉じてみた

季節に埋もれて

－季節に埋もれて－

大好きな季節・・・
秋、秋・・・
でも季節に
埋もれてしまったのか

遠くにむかって
叫んでみても
何の返事も来ない

やはり季節に
埋もれてしまったんだ

秋の季節は
とても大好きで
生まれてきた季節

なのに
何か分からないが
心までが季節に埋もれ
このまま耐えることに
なるのだろうか

冬になると
雪にも埋もれ
ますます
春が遠くなるのか

でも春になると
埋もれてしまった
時間が長いだけに
大きな喜びに
変わると考えて
いるのです

このままじっと
春は遠いけど
良き明日のために
耐えることにしよう

刺・トゲ・とげ

ー刺・トゲ・とげー

とげは・・・

愛しい君みたい

なかなか

心を開いてくれない

でもでも・・・

やっと仲良くなると

とげはなくなって

優しい女性になってる

今度はいつ会えるの

甘えるのも

上手になって

今はもう

恋人みたい

スダチの木

トゲが刺さってもいい

このままやさしく

育てて欲しいのです

残り月

－残り月－

早いもので

あと・・・

1ヶ月ちょっと

来月は残り月なんだ

1年の終わりを

せき立てるように

街のリズムも

早く年が明けてよと

新しい年を待ちわびている

クリスマスソングも

そろそろ流れて来そうな気配に

僕の心も

何故だか忙しくなって

大好きな女性と会う

楽しい時間も

あっという間に

終わってしまいそうな

そんな残り月

あでやかなりし

やっぱり女性って・・・いろんなファッションが楽しめていいよね！
羨ましい限りです。
男も頑張ってお洒落しなくちゃ！！

今は・・・もう冬なのに・・・！！
何故か僕は・・・季節のネジを戻して！！
初秋の雰囲気を追想してるのです。
いけませんか？

ーあでやかなりしー

色とりどりの
女性の装い
見てるだけで
楽しくなる

どこか遊びに行こか
いいわよ

OKの
返事ってことは

そうか
またあでやかな
装いだな

それだけでも
僕は楽しいのに
おまけに
会話も楽しいし

二人だけで
ディナーとなると
今日はなんか
僕は・・・

ついてるな

働くって

いつの時代も仕事があるって幸せなことだから・・・！
どうなんだろう・・・休日出勤しますか？
ワタシなら労使協定、36協定に違反がなければ出勤しますよ・・・。
・・・なんかショボいポエムになっちゃいましたあ！

ー働くってー

明日は休日
でも仕事がたまってる
休日出勤しょうか
どうしょう

次の予定の仕事も
大変なんだ

たまった仕事は
早く片付けよう
自分が楽になるから

仕事があるって
良いことなんだけど
さばききれないよ

みんなと相談して
割り振ろうっと
皆が協力すれば
早く終わるしね

新たな仕事を
取り込める
余裕もほしいよね

働くって
人が動くって
書くよね

それだけに
みんなが要領よく
動かなくちゃあね

冬が呼ぶ

昔の事なのですが、あちら（外国）の歌を英語で唄ってる先輩がいて、何かすごいなって思ったりしたし、電気の専門用語も英語が多くあり・・・電気工学っていいなあと思ったり、映画の話題なんかで・・・洋画の俳優さんの名前が出てきたりするとなんか格好いい雰囲気じゃありませんか？
音楽もしかり・・・会話では英字のものを使うべきと僕は思うのですが・・・特にデートの時には・・・ネ？
今度・・・試してみようっと！

記憶では、もてる人が多かったように思います・・・（笑）
今はどうか知りませんが・・・！！

ロバートシュワート、クリントイストウッド、ロバートレッドフォード・・・ブルースウィルス、ダイハート良かったねとか、昔の映画だけどジェームズデーンのイデンの東・・・どうだった？良かったねとか・・・良い響きですよ？
僕だけなのか？・・・気のせいかな・・・。

しょうもないことばかり・・・！！
そんなこんなで・・・？！
詩作でもするか！
寒くなってくるとこんなポエムに（さむー）

ー冬が呼ぶー

冬が呼んでいる
木枯らしよ
雪よアラレよ

吹いて吹いて
吹きまくれ

寒くなってくると
もういい加減に
もっと寒くなれって

野外スケートもいい

スキーもいい
氷壁の登はんもいい
雪の山を・・・
ラッセルで登るのもいい

着膨れもいい
炬燵もいい
石炭ストーブは
もっといい

冬が呼ぶ
冬が叫ぶ
冬は人の心が
一番暖かいよ

過ぎし日

ー過ぎし日ー

過ぎし日は
いつまでも懐かしく

サヨナラしたのに
いつまでも心に残る

心のなかで
今日の通じ合う気持ち

何故か忘れることが
出来なくて

いつまでもいつまでも
君のことを思いだしている

秋過ぎし日に
君との過ぎし日を想って
ますます淋しくなる

これが冬なんだ
落ち葉の絨毯を
二人で歩いたあの時は
今日のように
冷たい風が吹いていた

今も落ち葉を踏みしめると
君との過ぎし日を
思い出してしまう

白い街

— 白い街 —

こんなところにも
白い雪が
積もってる

そしてまた
白い粉雪が
降ってきた

空に向かって
見上げると
僕の眼にふれ
涙となって
消えてしまった

雪で白い街となった
あの時と同じ

失恋して
空を見上げたときの
涙だったのです

感動と夢と

ヨハネス・フェルメールのファンになったみたいです。
神戸市立博物館から帰ってきてから出来た poem !

— 感動と夢と —

うわあ
こんなこと初めて
来て良かった
会って良かった

思っていたとおりだ
こんなに凄いとは

見たこともない
素晴らしいの一言だ

僕の夢が広がる
もっと
広がる広がる

夢って
見なければ
始まらない

行動することで
夢物語も現実に
形となってくる
僕の感動と夢と

雲を見つめて

—雲を見つめて—

青い空・・・
雲がないのもいい
しかし、曇って
存在感がある

風に流れて
走る様は
じっと見てると
まるで雲に乗った
気分になる

そして昼になると
太陽を隠したり
日影を演出する

また・・・
雲の形も
いろいろあって

寝転んで見てると
物語のなかに
吸い込まれていく

そして
いつの間にか
陽も落ちてきて
今日の終わりに
顔を赤く染める

光への彼方に

—光への彼方に—

この光・・・
どこまで続いているのか

この輝きは・・・
どこまで輝いているのか
何を照らそうとしているのか

訪ねてきた人だけに
そっと伝えてくれます

この光は・・・
そうなのです
私たちのための光

私たちに
絆の輝きを
教えてくれるのです

そして
明日の希望と
明日の夢と
光・・・ある限り

私たちに
永遠に降り注ぐのです

雪の道

— 雪の道 —

雪の道を
歩いていると
白い息を
息を吐くたびに
身体が
なんだか暖かいのです

この先の道は
まだ誰も
足跡をつけていない

さてさて
どうすべきか
このまま進もうか

後ろをふりかえると
ここまでの長い足跡が
もっと進めと
言っている

そうだよ
いけるところまで
進めばいいんだ

昔の懐かしい音色

ー 昔の懐かしい音色 ー

ハーモニカの伴奏で
ギターのメロディーが
聞こえてくる

一度でも
吹いたことがあると
本当に懐かしい

ミニのハーモニカ
どこかにしまってる

でも
記憶から
すでに遠くにあり
探しても見つからない

ふるさと♪をふくと
何故か涙が出てきた

昔は・・・
ハーモニカを使って
作曲をしていたのに

今はもう
情けないことに
そんなことが
できない自分がある

過ぎし日は
何もしていないと
何もかも
忘れ去ってしまう

良い知らせ

ー 良い知らせ ー

良い知らせは
早く伝え

良い知らせを
待ってる人に伝え

良い知らせは
そっと伝え

愛してる人とともに
喜び祝う

喜び祝う
良い知らせは何か

そうなのです
Xmasが近づき
苦しみと悩みのない
良い知らせ

そして特別に
二人に知らされた
新しい世界に
旅立つのです

あなたの良い知らせは
何ですか

心もよう

—心もよう—

揺れる心
冬が訪れると
決まったように

そんな時って
冷たくって寒いのに
外にでて
空を仰ぐのです

冬空は特に
星がきれいで
たまに流れ星が

心もよう・・・
麗しきかな
愛する人たち

星と遊んでると
冷たくなった
体なのに
何故だか
心は暖かい

僕の心もようは
雨が晴れて・・・
晴れ晴れと
しているのです

フロンティアの森

ーフロンティアの森ー

夢の中にて
フロンティアの森が
出てきて
変な夢を見たんだ

森の中に入って
迷ってしまい
なかなか出られない

いつか人から
聞いたことがある

何か悪いこと
しなかったか
悪いことをして
森に入らないこと

そう言えば
その様な事を
聞いたことがある

許して下さい
実は好きな人に
その気でないのに
幸せにするって
嘘を言いました

それじゃ
この森からは
出られないよ

今からでもいい
大きな声で

森の奥に
向かって叫ぶのだ

ごめんなさい
本当に
心から幸せにするから
お願いします

はてさて
迷った森に
道が浮かび上がって
森から出ることが
出来たのです

良いことは

—良いことは—

今日はきょう

昨日はきのう

良いことは

いつもは続かない

でも明日もって

考えてしまう

そう明日も

好きな人に

会って楽しむんだ

うまくいくかな

こうも毎日・・・

心掛け次第だよ

僕は好きなんだから

相手も

好きに決まってる

さあ電話しよう

もしもし・・・

良いわよ

夜なら・・・

ホントにいいの

ほらほら

良いことは

続くんだよ

君と歩いた道

—君と歩いた道—

いつも楽しすぎて
いつもいつも
笑いが絶えなかった

今想ってみると
楽しかったことが
多かっただけ
悲しみも
大きくなるって

君を失って
初めて気がついた

そんなことに
気付くなんて
それだけ・・・
それだけ
愛してたんだ

ふりかえっても・・・
ふりかえっても
君と歩いた道は
僕にとっては
かけがえのない時間

僕にとっては
世界で一番
しあわせであった
時間なんだから

まもなく・・・
まもなく
また一緒に

なれる日が来ます

それまでもう少し

待っててください

昔は今

— 昔は今 —

昔の人の作品が
今でも
人気があるって
凄いこと

良くもまあ
資料も
残ってること

良いも悪いも
昔の記録って
不思議なほど
残ってるものだ

僕の記録って
なにもない

でも
本を出したり
blogをしてたら
誰でも容易に
未来のために
残せるではないか

情報過多であるが
ほんとうに
良い時代・・・
なのである

キラキラきらり

ーキラキラきらりー

晴れた朝
寒い朝
身も心も
引き締まる

そして・・・
きらきら光る
朝の雪

太陽の昇る頃
積もった雪が
光ってる

きらきらと
キラキラ、キラキラ
希望の輝きだよ

近くの川面も
きらきらと
光ってる

僕の心も
きらきらと
光ってる

今日は
良い日なのかな

そうそう
好きな女性と
会うんだよ

僕だけじゃない

皆もみんなも

きらきと

光ってる

みんな良いことが

あるのですね

君を待つ

—君を待つ—

夕暮れの
洒落た喫茶店

待ち合わせの
人達で席も
埋まってしまった

携帯のベルが鳴る
まもなく
着きますから
愛しい女性の声

どんな格好だろうか
ポニーテールかな
ツインテールかな

ミニスカートだと
うれしいなあ
そんなことより
会えるってことが嬉しい

そして・・・そして
何を着ても
似合う君は
いつも可愛いのです

他愛のない
こんなことを
考えてるだけで
君を待っている

明日がある日

大好きな人・・・？

大好きな人とは、もっともっと愛し合って楽しい1日にしたい
ものです・・・。

二人して前に進めば、世の中も明るく見える？

二人が幸せなら毎日が嬉しくって、楽しくって・・・どんなことが
あっても許しあえるって感じがしますが・・・どうですかね？

そんなこんなで・・・大好きな人を想って♫EMを作ってみよっと！！

・・・と意気込んでみたのですが、ちょっと方向が違いました？

—明日がある日—

今日は良い日でしたか

昨日は良い日だったよ

今日は平々凡々です

でも明日がある今日は

もっと良い一日にしたい

残り少ない一日だけど

今から思い出づくりを

してこようと思うのです

明日がある日って

大事にしたいです

そして・・・

もっともっと

良いことが

ありますように

しあわせは

そうそう・・・夢を見たんだらうか？

夜中に突然目が覚めて・・・反対にいつの間にか寝入ってしまって
起きれば・・・朝昼兼用の食事をしなければならない時間だったり・・・。
何てテタラクな日常なんですが・・・辛うじて元気です（笑）

ーしあわせはー

幸せって

どこからくるの

むこうの山から

やってくるんだよ

そうそう

虹ができれば

渡っていけば

早くいけるよ

幸せって

なんだろうね

健康であったり

家族がいたり

好きな人と

一緒だったり

でも幸せでも

悲しいことはあるよ

愛する人と

別れたり

喧嘩したり

いろいろね

天国にゆくって

悲しいよね

悲しいことがあれば
あった数だけ
幸せがやってくるよ

去年はどうだった
幸せだった？
しあわせって
いいなあ

今日は雨

月曜日の今日は雨模様・・・降ったりやんだり？
こんな日は・・・やはりカーペンターズのRainy days and mondays ♪が
似合います。

ー今日は雨ー

雨が嫌いって
大好きな兄を
亡くしたと言う

冷たい雨は
何故か思い出して
涙が出てくるって

そんな君を
見つめてると
愛しくって

そんな君は
物静かで
何故か淋しげで

そんな君が
たまらなく好きで
後ろから
抱きしめて
いたのです

春の風は

— 春の風は —

春一番が吹いた
風は僕の友達
いや恋人かも

風は君なのかも
知れないよね

暖かい日だまりを
乗せてくるのだから

そして・・・
心に届くように
僕の胸をつつくんだ

ねえねえ・・・
遊んでよって
甘えるんです

ある春の
陽射しの中で

大好きな君を
抱いたあの時に
何故か・・・
似ているのです

夢を訪ねて

夢を訪ねて？

あなたの夢は・・・何ですか？

突然に聞かれると答えに困ってしまいます。

好きなことができることって・・・？

夢じゃないような答えですが・・・本当に好きなことができることが少なくなってきました。

それだけ住みにくい世の中と言うことでしょうか・・・。

— 夢を訪ねて —

夢を訪ねて

旅に出た

果てしない道を

歩いて歩いて

まだまだ夢は遠い

山を越え

谷を越え

気球に乗って

海を越え

何処まで

行けばいいんだ

ほんとうに

果てしないこと

もうすぐだよ

そんな声が

何処からか

聞こえてくる

耳を澄ませてみる

なんだなんだあ

あんなに遠いところから

もうすぐって

言ってるんだ

あとどれくらいですか

もうすぐだよ

頑張っって・・・

夢を訪ねるって

大変なんだね

君が待つ春

—君が待つ春—

君はいつもの場所で
じっと待ってる
僕はまだなのに

君は早くから
待ってくれてる

そんな気持ちが
嬉しくって

そっと後ろから
近づいて
抱きしめた

冷たくなった
君の体がふるえて
春を待つ
つぼみのよう

もっと強く
抱きしめて
僕の温もりを
伝えます

そしてそして
僕からの春を
届けるのです

梅の木

—梅の木—

梅の木

つぼみがいっぱい

ついたよ

椿の木

蕾が膨らんだよ

まもなく

まもなく

花ひらく

梅の香り

春を待つ

そっと待つ

梅のつぼみが

囁いてきます

春は

まもなくだよって

椿のつぼみは

もう待ってられないよ

少し暖かくなったら

咲いちゃうよって

忘れたところに

— 忘れたところに —

何事も

忘れたところに

やってくるって

喜ぶべき事・・・

なのでしょう

好きな人からの

返事だったり

すっかり

忘れていた

誕生日だったり

突然じゃないのに

自分では

突然とってしまう

サプライズって

人を幸せに

するのだね

前を見て

そうそう・・・ホト、車やバイクの運転も注意しなくちゃ！
そう言えばスーパーマーケットの帰りに知らない女性から声をかけられました。

もし、お忘れ物じゃないですか？・・・えっ？
ショッピングカートのフックのところにヘルメットが・・・。

ほんとだ・・・ありがとう！

もうもう・・・なんて情けないことに。
歳を重ねてることを自覚しなきゃ・・・。

そうそう・・・閃きが？・・・歳のいったのを理由にしょっと！
ごめんごめん・・・年寄りだから
ほんと・・・このフレーズ、良い言い訳に使えるぞニヤン（笑）

—前を見て—

横を見たり
後ろを向いたり

しっかり
前を見て
歩こう

そして
俯いて歩いちゃ
だめなんだよ

何も・・・
落ちてないのだから

天からは
何も・・・
落ちてこないよ

前を見て
しっかり

歩かなくちゃ

前には未来が

待ってるよ

近くて遠い

さあさあ・・・GSへ出発！・・・。

呼吸器の状態が良いと、そんなことは簡単なのですが・・・。

ほんと・・・どうにか、どうにかGSに着きましたが、途中で呼吸が苦しくなって、M^oフィンエア-を吸入はしたのだけれど給油位置に来てからのゼイゼイ感とヒューヒューとゼイめい(喘鳴)が止まりません。一番苦しい時なのです。

なかなか肺に空気が入ってこないんだから・・・。

喋るのも大変・・・ガツン満タン・・・完了

そんなこんなですが・・・結果オーライですけどね
気分を変えて・・・いい詩ができるといいなあ？

ー近くて遠いー

前に見えてるのに

まだ着かない

やはり体調が

万全でないと

五体満足って

良く聞く言葉

健康が一番って

分かっている

歩けることって

走れることって

動かなければ

人間って

なんなんだ

元気でも

いずれは・・・

やってくる

五体満足・・・
でない時が

そして
近くて
遠いことが
分かるのです

春の夜

ー春の夜ー

月の薄明かりに
梅の花が映えて
時々・・・
やけに明るくなる

白い花びらは
春らしくって
清らかです

何故か君の
唇に似てる

少し唇を
とがらして
口づけしてって
言ってるようだ

春の夜は
恋の香りがして
ロマンチック・・・

さて朝には
どんな花びらを
見せてくれるのか

いやいや今度はね
話しかけてくるかも
知れないですよ

好きになっても
いいですかって

さくら

ーさくらー

桜, さくら, sakura

サクラ・・・

花びら香る

心は躍る

新しい夜明けの

1 ページ

桜は明日の

道しるべ

花びらが風にのって

飛んでゆく先は

どこだろう

まだ見ぬ世界を

明るい明日を

誘ってくれる

桜, さくら, sakura

サクラ・・・

次の年も

また咲いてくれるんだね

ありがとう

雨の日も

雨の止んだ時を見計らって朝食に行ってきました。
帰るときには雨が降ってきて・・・バイクのシートが濡れていて！
・・・そのまま座ってしまっていたのです。

帰宅してからは、いつも駐車してる場所からバイクを移動して
雨を避けることに・・・。
ただいましてからは、お尻がびしょりに気付くありさまです。
ほんと何をしてるんだか？・・・おおー冷たあ！
当たり前じゃ・・・早くズボンを脱いで！！

ー雨の日もー

雨が好きな人も
雨が嫌いな人も
いるでしょ

雨の日は
それにちなんだ
歌でも唄って

心から
楽しくしなくちゃ

雨の日は
余計に持ち物が
増えるでしょ

だから
それだけ楽しいと
思わなくちゃ

色とりどりの
傘も雨具も
ファッションの仲間入り

雨の日は
みんなで
楽しみましょ

ピチピチ
チャブチャブ
ランランラン

夢のなかへ

— 夢のなかへ —

大好きな娘が
夢の中に現れた

瞳を閉じて
抱き合っている

昔にこのような
光景があった

手を握った
柔らかくって
温かい

僕の気持ちまで
温かくなった

僕はもっと強く
抱きしめてみた

胸の動悸が
伝わってきて

互いにじっと
見つめあった

いつものあの娘

日曜礼拝・・・復活後第2主日（主のあわれみ）・・・！
preach the gospel（説教）・・・あなたは自分を愛しているか
その中で・・・日本人は愛してると口に出して言うことが生涯で
3回だけであると言われてるそうです。
欧米に比べてシャイな性格が影響してるかもですが？
♪ 時のとき、結婚したとき、死ぬとき・・・らしいです。
僕もそうかも知れませんか？(笑)

♪ 人はイスのためなら命を捨てますと言い、イスが捕らえられ
裁判にかけられるときには3度もイスを知らないと言ってしまった。
僕も♪ 人と同じ立場になれば同じ事を言ったかも知れませんか！
人って弱いものです・・・。
年を重ねて・・・いつ天国に逝くかも知れないこの時世・・・僕の場合
はどうなんだって考えてしまいました。
さてさて・・・難しい戯れ言は置いといて詩作しますね！

—いつものあの娘—

公園にて・・・
子供たちを連れて
楽しく遊んで
はしゃいでいる

散歩にて・・・
愛犬と一緒に
じゃれあって
戯れている

食事にて・・・
食べ方が綺麗で
マナーが良いし
チャーミング

僕と二人きり・・・
甘えてくれて

会話も楽しく
何故だろう
椅子の後ろから・・・
抱きついてきました

そんなあの娘を
僕は・・・
愛してる
とてもとても
大好きなんだ

男性って

ー男性ってー

男性って汗かいて
汗まみれになって

女性って優しい言葉で
励ましてくれたり

素敵な笑顔の女性は
男性にとっては
幸せのサインなんだ

どうせ生きてるなら
笑顔をもっともっと
ふりまいておくれ

男性って苦しいのに
そんなことは
顔にも出さず
汗かいて
汗まみれになって

むむ・・・大変そう
働く姿って美しい

ひとつひとつが

－ひとつひとつが－

コツコツと

小さい積み重ねが

ある日に

大きな成果になって

現れるのです

ひとつひとつ

少しずつ

頑張って

努力してみて

今は小さいこと

でも

未来には

とてつもなく

大きなものに

年を重ねるのも

同じで・・・

刻んだ年輪が

いつの間にか

多くなって

人の上に立っている

薫風とともに

— 薫風とともに —

薫風とともにいるとき
僕は想うのです

君といるときは
これからは・・・
いつもいつでも
いつまでも・・・

大好きなんだって
考えているのです

初夏の新緑のなかを
吹き抜ける
心地よい風のごとくに

君の笑顔は・・・
まさに薫風と一緒に
いるようです

これからも
いつもいつでも
いつまでも・・・
よろしくです

花のかんざし

初夏と野原と？

またまた・・・夢を見ました。

ある初夏の頃に、少女と二人して木曾川の川縁の野原を歩いた時のことです。

そこまでは自転車に乗って・・・サイクリング気分、爽やかな風が二人を包むって感じです。

そして、僕が後ろを走ることになりました・・・！

君の長い髪がなびいて良い香りが！

・・・僕の胸はドキドキしています。

ああーいい香り・・・！！

早く手をつないで歩きたいって思ったのですが

夢も・・・The end！

この先がいいシーンなのに・・・。

そして・・・こんな♫Eになるのです。

ー花のかんざしー

川縁の野原は

野の花がいっぱい

花のかんざしを

少女の髪に

挿してあげました

とたんに・・・

少女はますます

可愛くなって

微笑むのです

そして

何故か唇が潤んで

ピンク色に・・・

染まります

少女はじっと
僕を見つめて
瞳を閉じました

抱きよせて
口づけをすると

甘い果実が
口に触れたようで
大人の
香りがしたのです

親類縁者は今

父母の法要・・・！！

ほんとうに皆様方の支えがあつての・・・ことなのですが、長生きはするもので、こうしてイベント行事が出来ること事態、元気であればのことなのです。

別れ惜しい一日でしたが、またまた新たな絆のスタートになりました。良しにつけ、悪しきにつけ・・・ご縁のあつたことを嬉しく思うのです。またお元気で、そしてありがとう・・・。

—親類縁者は今—

人は人

されど人

親類は親類

そして良き縁者

はるか昔を想い

その時々で

心しみ・・・

助け合い

励まし合い

良き縁者

人は人

良き一日かな

親類縁者の集い

今日は昔を偲び

懐かしみそして涙する・・・

良き一日なのです

1, 2, 3, 4って

ー 1, 2, 3, 4ってー

ラジオ体操第1

ちゃんちゃか

ちゃんちゃん・・・

ちゃんちゃか

ちゃんちゃん・・・

大きく腕をあげて

かかとをあげて

バランスをとって

そうそう・・・

毎日してるんだ

準備はできたか

背伸びの運動から

呼吸が楽になり

おいしい空気が

胸の中に

入ってきます

元気な証し

1, 2, 3, 4

5, 6, 7, 8

そして・・・

夢の中でいいから

恋をはじめよっと

平和への約束

ー平和への約束ー

せっかく手にした
平和憲法・・・

手放せば二度と
返ってはこない

平和憲法は
大切な家族

君死に給うことなかれ
死に追いやることなかれ

私たちの
平和の砦

犠牲になった
人たちとの
永遠の約束なんだ

守らないと
そうでないと
今の平和は消滅してしまう

あの日の
キノコ雲の下での出来事・・・

そして平和を誓った
あの日の気持ちを
忘れてはならないのです

あのとき

ところで・・・ところで・・・！！

目が覚めると肌布団を手繰り寄せ背中に掛けていましたあ・・・。

そうかそれで温かったんだ！

・・・実は、女性に後ろから抱きしめられていたのです。

背中が温かくなり、優しさと愛を感じたのです。

その女性がどこかでお目にかかった人であって、夢の中では歯の治療に手術なんて聞いたことがなく、不思議なことがあるもんだ？

そして、何故だか僕の側で手術着に着替えてるのです。

そして、えって感じで下着姿を凝視するのですが・・・やはり僕も男なんだ(笑)
それから後ろから抱かれたまま・・・訳の分からない手術をしてるのです。

あっ・・・夢か！

でも、この先良いところだったような感じ・・・です。

見ようと思っても見れる夢ではないので・・・貴重です。

—あのとき—

夢で見た

あのとき

現実でのあのとき

やはりと思う

現実なのです

そう思ったら

何故だか愛しくって

あのときの

k i s s した日を

思い出して

心まで

楽しくなるのです

夏休み

—夏休み—

空の青
海の青
子等の歓声

夜明けとともに
聞こえてくる
小鳥のさえずり

少しして
子等の声が聞こえる
そうかそうか
ラジオ体操なんだ
もう起きなくちゃ

夏休みって
何故だか
ひまわりやスイカが
頭のなかを駆け巡る

そして僕は・・・
まだベッドのなか
僕の体も
夏休みなのです

夏のかおり

ー夏のかおりー

フェリーに乗って
実家に帰る

海のかおり
そして実家の空気
ふるさとのかおりがする

高松に着くと
そのかおりが
いっぱい広がって
うどんの香りも
お腹の中に届くのです

海の風が
半袖の裾をなびかせ
蝉の鳴き声も
元気いっぱい

僕の心も何故だか
ふるさとの夏のかおりに
酔ってしまって

不思議に足どりも
かるやかになるのです

良いこと

ー良いことー

並んだ行列

運よく

もう一つのドアが

並んでる前で開いた

座ることが出来た

今日は

サマージャンボの

抽選日なんだ

ほおほう・・

運気が高いと

当たるかも

そんなことは

あり得ないんだけど

テンションが

高くなる

ハズレて

いたのだけれど

少しは

良い夢をみた

良いことって

気分次第

心がけ次第なんだから

ふるさと

—ふるさと—

ふるさとにむかって
叫んでみたか

ふるさとにむかって
お願いしてみたか

ふるさとにむかって
失礼していないか

いつぞやは
お世話になったと

あのときは
いろいろ有り難うって

ふるさとは
想うものだけでなく
帰ってみることなんだ

そしてそして・・・
ふるさとにむかって
今から帰るぞっと
叫んでみるんだ

父母の声が聞こえてくる
早く帰っておいでって

だからふるさとに帰ると
一番先に帰ってきたよって
大きな声で叫ぶんだ

苦難

イエスによって、生まれつき目が見えない人がいやされ、目がみえるようになった彼・・・。

「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが」イエスは言われた。あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのがその人だ。彼が「主よ、信じます」と言って、ひざまづく。「わたしがこの世にきたのは、裁くためである。こうして見えない者は見えるようになり、見える者は見えないようになる」

このあと・・・フランツ・シュベールの冬の旅・・・コンサートに行きました。
うーん・・・何故か暗いホムになったようです。

— 苦難 —

明日も見えない
先も見えない
真っ暗闇の中に
投げ出されたようだ

手には幸いにも
小さな懐中電灯が
あるのだが

電池も残り少ない
まずは明かりを
前に照らしてみる

そこには細いが
道が続いている
この道を歩いて行けば
何処にたどり着くのか

迷っていても
仕方がない
前に進んで
行けるところまで

進んでいくのみなのだ

苦難な道でも

歩けるだけでも

有り難いことなのかも

知れないのです

なつ、夏そして秋

—なつ、夏そして秋—

昔の夏の想いを
胸にしまった
ままなのに

またあの夏が
やってきた

そして今年の
夏を想う間もなく
秋が来てしまった

その繰り返しが嫌で
来年こそはと
思うのだが・・・

夏って
長いようで短くって
最高に楽しい季節で
はしゃいだことも
多いのに・・・

何故か
寂しい心の中を
写しているのだ

だから
夏の想いを
今日・・・
思い出しては
懐かしんでいる

挑戦しよう

法にふれない限り、いろんな事をやってみるって・・・！！
大切じゃないかって、思っているのですが・・・。
そんなこんなで、こんなボ°Emに・・・またまた、いつものルーズに(笑)

ー挑戦しようー

何かに挑戦してみる
やってみることに
悔いはなし

違っていても
失敗しても
それが教訓になり
次へのステップに
なるんだから

無駄なことって
ひとつもないって
ことなんだ
人生ってやつには

自分で考え・・・
価値ありと思うなら
何でも
やってみよう

明日から走って
みょうかな
走れるかな

秋色に染まる日々

— 秋色に染まる日々 —

恥じらいの
君の顔・・・
色づく葉に似て

どちらも秋模様
そしてきれいだ
見とれてしまう

秋桜が
風に揺れて
君の心も
何故だか
揺れている

秋色に染まる
彼方へと
君は・・・
消えてしまうのか

嗚呼・・・
愛しき君よ
春にはきつと
戻ってくるって
約束したのだから

僕は冬を耐えて
じっと
待つことにします

今年の秋色に
染まる日々は
とても寂しく
感じるのです

君が戻るまでは

良き日に

見よ、わたしはあなたと共にいる。
あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。
わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。

・ ・ まだまだ勉強しなきゃ(笑)
そんなこんなで、ぼちぼち・ ・ 詩作にかかります。
日曜礼拝の影響か・ ・ こんなボ^oEMになりましたけど！！

—良き日に—

心休めるときは
骨休みもいい
無心でいられるよう
考えて考えてって
思わないでおこう

悩みも
苦しみも
遠くにおいて

今のこの時にある
喜びだけに
浸ることだ

明日のことは
明日が解決してくれる

だから
思い悩むな
ただ前に
進むだけでいいのだ

僕からあなたへ

ー僕からあなたへー

あなたへ・・・
それは僕からの
贈り物・・・

何がいいだろう
気持ちの
込めたものをもって
思うのだけれど

元気な姿を
見れるだけでいい
そう言う君へは

やはり心のこもった
感謝の気持ちを
贈りたい

僕からあなたへ
誕生日にちなんだ
指輪にします

そして
君への口づけを
贈ります

ともだち

いやいや・・・恋するって、やっぱり秋なんですね・・・。
シュバルツの冬の旅にならないようにしなくちゃ←意味不明
でも分かる人がいるはずなのですが・・・。
失恋すれば・・・よく分かる・・・冬の旅？
p o e mは関係のないテーマになっています(笑)

ーともだちー

共に笑い
共に泣き

共に楽しみ
共に苦しみ
ともに生きていく

今日も明日も
助け合って

そして
前を見て
進んでいく

ともだち・・・
いつも仲良く
いつも喧嘩して

でも
最後は競争して
成長していくんだ

ようこそ・・・愛しき君へ

ーようこそ・・・愛しき君へー

ようやくめぐり合えた
二人なんだから
いつまでも仲良しでいたいよ

愛してるって
はずかしくって言えないけど
大好きなんだ

ありきたりの言葉・・・大好き
これだけでも照れくさくって
口に出して言えないもどかしさ

だからp o e mで伝えることに
そして今日はここまでに

ほんと・・・ようこそ
愛しき君へ
僕からのメッセージを伝えます

ありがとう・・・
これからもよろしくです

仮面をつけて

ー仮面をつけてー

仮面をつけるって
顔を隠すんだ
そうなんだ
今からよからぬ事を
するんだから・・・

顔を見られちゃ
大変なんだからね
皆んなそうなんだよ
サングラスをしたり
マスクをしたり・・・

これらのグッズって
仮面と同じだ
なかにはほんとうに
眼の悪い人や
風邪をひいちゃった人も
いるんだけどね

でもよからぬ事を
するって・・・
必ず仮面をつけた
人なんだと思う

誰にでも怪しいって
感じがして
すぐに分かっちゃうのに

心にまでも
仮面をしてるって
怪しいって
なかなか思えない

でもフレンドリーで
人なつこいって
怪しいとは思えないよね

しかし普通で考えると
何故だか・・・
うさんくさいんだけど
まあ良いかって
外観で判断してしまってる

僕もやはり仮面をつけて
よからぬ事を
してみようかな

いやいや仮面なしで
よからぬ事を
したほうがいいに
決まってるって
勝手に思ってるんだ

でもね・・・
正体が分からないって
何かワクワクしない

よからぬ事じゃなく
良いことをするにも
仮面をするじゃない
正義の味方的で
格好がよくって
そのための仮面って
一度はやってみたいよね

懐かしい顔

そろそろ実家に帰らなけりゃと思っていたら、電気科のクラスメートから電話があって同窓会をするのだが、参加しないかって携帯に電話があり・・・いいなあって思ったのですが、地元の行事があり欠席することに！
いろんな行事等の誘いがあって、孤独感がないって良いことですよね
ほんとうに・・・これからもよろしくです・・・。

－懐かしい顔－

なにげに・・・
過去の思い出が浮かび
アルバムを紐解いてみる
あの頃は
何をやってたんだろう

一人一人の
顔を見ては
そうそう・・・
そうなんだって
いろんな事を
思い出す

懐かしい顔・・・
皆んな元気だろうか
僕も生きてるんだから
元気にしてるだろうって

今になって
会うことが出来れば
誰だか
分からないんじゃないか

そんなことを
考えている・・・
やはり
秋って人恋しいんだ

集い

元勤務してた会社のOBおよびOG会

健康の秘訣？

諸先輩型のメッセージもあって楽しかったです。

本を読み、デパートを偵察しろ、孫や子供と遊べ、恋をしろ、それとあとひとつ
うーん・・・何たらと言ってたなあ・・・思い出せないのです(笑)

そうそう・・・僕は詩作ですから！

そんなこんな・・・で拙いpoemの出来上がり・・・詩作一丁あがり！

ー集いー

若人の集い

大人の集い

老人の集い

今日は

むかしむかしの

企業戦士の集い

集まって

喋って食べて

酒を飲んで

酒の飲めない人は

ウイスキー色した

烏龍茶でごまかして

自分の財布でないと

料理も不味いって

いやいや

他人の財布こそ

もっともっと

美味しいんだ

さあ頑張ろうって

OB会恒例の

三三七拍子で締めて

僕も明日から

どうにか生きていこう

不器用

ここだけの話・・・。

この間も・・・買い物帰りのことなのですが、サイドブレーキをかけたままで車を走行していたのです。

・・・何かランプが点灯してると思ったのですが、近くの信号で停車したときに気付くなんて・・・もうもうホト・・・「おとしより」なんだから？

そうそう・・・これって年齢の影響じゃなく晩秋の影響かも知れません？
とととと・・・なんてことを理由にしたりして(笑)

－不器用－

仕事はテキパキ
器用って人から言われるのに
何故だか
折り鶴が折れない
不器用な人間なんだ

でも独りになった僕は
昔のお気に入りの
カーデーガンの袖に
穴があき・・・
直すんだと言って
ソーイングケースを
出してきた
裁縫なんかを・・・

出来そうもないのに
この頃は何か
主婦業が・・・
さまになっている

クラシック音楽を
聞きながら
縫ったところの
袖を通すのです

まだまだ着れるよ
このカーデガン
新しく買ったのを
着ればいいのにね

生きる

気になった招きの言葉（招詞）・・・？

老人を叱ってはなりません。むしろ、自分の父親と思って諭しなさい。年老いた婦人は母親と思いなさい・・・テ行への手紙1の5章1,2なのですが・・・僕自身が該当しそうな歳になりつつある現実を思いながら・・・今までこのことが出来ていたかと思うと反省しきりなのです。・・・今からでも注意したいと思うのです。

－生きる－

悲しいことも
喜びも・・・
楽しいことも
生きてると
いろんなことが起きる

生きるって
大変なんだから
悲しいことが多いほど
大きい幸せがやってくる

喜怒哀楽・・・って
怒ることを堪えて
楽しくしてると
喜びも大きくなって
返ってくるんだ

怒る顔は怖いし
好かれないんだよ

笑顔が一番だよ
周りに
いろんな人が
集まって来て
楽しさが
いっぱいになるんだ

生きるなら
楽しいことの
多い方がいいよね

いたわりの言葉

ーいたわりの言葉ー

寒かったでしょ
遅くまで頑張らせて
ストーブ入れてますよ
温かいお茶を入れますね

おはよう
今日はお早いんですね
寒いから温かくして
お気をつけて・・・
行ってらっしゃい

おかえりー
お風呂にするう
食事にするう
それとも少し休みますか
それじゃ
大好きな珈琲を入れますね

元気のでる
いたわりの言葉
明日からじゃなく
今から・・・
はじめてみます

ステキな女性

ーステキな女性ー

何となく憧れる

美しいに

越したことはない

色気、優しさ、笑顔

そして・・・

親しみのもてる

小悪魔的な

不思議な魅力

表情が豊かで

話題も豊富で

知的・・・

そう才色兼備なんだ

僕がいまでも

恋してしまう

すてきな女性（ひと）

目標

—目標—

年のはじめに
何らかの目標を
たてたはずなのに

今はすっかり
忘れてしまって
何やったやろ
書いておけば
よかったかなあ

まあええか
元気なんだからって
訳の分からない
変な理由をつけて
納得しているのです

そうそう・・・
少年時代の
恋心って
どうだったかって

好きな女性に
話すにも
今日のように
訳の分からないことを
話してたような
気がしてるのです

年老いてからの
目標って・・・
年が迫ると
結局は何かと忘れてる
この頃なのです

寒い朝に

牧師先生からのメッセージは、神は私たちの道を知り、私たちと共に歩み、私たちと共に語る愛の神である。
人生の道を一人ぼっちで進むのではなく、神とまた人々との対話が伴うことが大切・・・今、この待降節から始まるように祈りましょう。
とのことでしたが・・・！
ほんと、一人で人生を進んでいくって大変なことです。

－寒い朝に－

足元から冷たくって
何度も目が覚めて
家のあちらこちらの
窓を風が叩くのです

そして
冬の寒い朝に
にぎやかな
小鳥の声で
起きてしまった

木枯らし吹きつつ
冬の香りは
冷たいレモンのような
そんな気がしてる

珈琲カップを
両手ではさんで
暖をとるって
最近の朝模様なのだ

占い

イエス・キリストが十字架にはりつけになって処刑されたのが13日の金曜日とされている・・・こんな日に定期診察に行ったのであるが、定期検査として、ベッドに寝かされ心電図をとられたり、尿検査や血液検査をされました・・・やっぱりね(笑)

ところで尿検査、心電図・・・異常なし
血圧：112/70そして%SPO2：96から97、脈拍82・・・いい状態！
血液検査結果は後日・・・です。
そんなこんなで・・・poemをつくりました！

ー占いー

姓名で星座で
人相で血液型で

気になるのは
やはり恋なのか

びっくりするほど
当たってしまって

生命に関しては
何故か怖くって
スルーしてしまった

やはり当たる方が
楽しいし
その後の行動に
ワクワク・・・
ドキドキ

僕には星占いが
よく似合ってる
まだまだ・・・
恋ができるみたいです

天秤座の女性（ひと）

何故だか・・・こんなpoemに(笑)
まあいいか・・・！！
昔のことを思い出すって・・・高齢者なのかな？
そうなんだ・・・これは老化現象なんだ！

－天秤座の女性（ひと）－

憎たらしいほど
好きになった

知り合ってから
2年の月日が来て
彼女は去っていった

今も心の記憶には
しっかりと・・・
保存されているのだ

元気にしてるかな
愛した人は
いつまでも
幸せでいてほしい

遠い過去から
あの日が・・・
よみがえって
くるときがある

あの時の姿で
歳もとらずに
若いんだこれが

お互いに同じように
時が流れてるのに
腹が立つ

そう言えば
どちらも互いに
そう思っているんだ

冬・・・ふゆ

—冬・・・ふゆ—

冬至って
冬真っ盛りって
感じがしてしまう

そして・・・
あちらこちらの
スキー場便りも
聞こえてきて

昔は・・・
スキーに行ったよね

スキーに連れてって
甘えられては
行くしかないかって

それももう遠い世界に
なってしまったんだ

もう一度
スキーに行きたい

冬って寒いけど
楽しい思い出が
いっぱいなんだから

ある日

—ある日—

ある日・・・

空を飛ぶ夢を見た
何故だか両手を
大きく広げて
足を閉じて
空を舞っている

この日は

いい天気で
空も澄みきっている

こんな良い日に

空を飛べるなんて

ほんとうは

飛行機に乗って
飛行機雲を
作りたかったのだ

空にむかって

道をつくるようで
一度やってみたかった

自分が空を飛ぶって

雲なんか出来っこないのだが
ひょっとして
雲が出来るかなって
足をバタバタしてみる

やはり雲なんて

出来ていない

こんな夢をみたある日

次は飛行機を操縦して
空を飛んでみたい
そう思うのである

冷たい風

— 冷たい風 —

革の手袋なのに
この冷たさは何なのだ
昨日のいつか
あられが降ったという

そうかそうなんだ
冷たいはずだ

バイクに乗るって
寒さとの戦いなんだ
誰かが言っていた
勇気のいる行為って

僕って・・・
勇気があったんだ
バイクに乗って
初めて知った
自分に自信ができた

この時期の
屋外のスポーツって
勇気のいる行動なんだって

いやいや
みんな元気なんだろうって
冬の好きな人たちって
たくさんいるんだね

新しいこと

リジカ切手が作れるようです。

まあ言えば、自分の切手を作ることができるってこと？

郵便局の回し者的な感じになりましたが・・・これっておもしろいと思うのです。

僕的には興味津々ですが(笑)

・・・一度やってみたいです。

大好きな人とのツーショットの写真がいいかなあ？

好きにしたら！・・・フって言ってるような冷たい言葉が・・・。

まあいいか・・・他人のことなんだからね。

—新しいこと—

人がしないこと

これって

見たこと・・・

聞いたことないって

新しいことって

興味があって

やってみたくなる

聞いてみたくなる

新しいことって

なぜだかワクワクして

楽しいんだ

新しいことって

冒険なんだ

アドベンチャー気分で

こっそりと

一人でやってみようっと

なんか発明してるみたい

そんな気がしている

続・・・ふるさと

ー続・・・ふるさとー

幸せの音が
聞こえるかな
懐かしきふるさと

海々からも
山々からも
風が幸せを
運んできます

窓をそっと
開けると
ほら聞こえてくる

おかえりー
聞こえましたか
そうそう
ラジオの音を止めて
もう少し静かに

あっ・・・
聞こえてきたよ
幸せの足音が
わたしにも
聞こえました

ともしび

牧師先生から・・・このロウソク、明かりを灯すことは考えていなかったが
ある1人の子供（小学校も終わりに近い）が、言葉を話さなくなったこと
から、子供の回復を願ってのことだとおっしゃった。

私たちは今あるものに寄りかかる事がある。

しかし新しいものを始めてみることも必要であるとのことでした。
今日は何故かハﾟイ°ルガンの響きが・・・心の中によく届くのです。

また、幸いなことに神の導きの声を先取りして聞けるのですから！
大いに期待しているのですが・・・果たしてどうなるのか(笑)
神からのプレゼントなのだから、良いものに決まってるでしょ？

まだ現れていないものが重要なことかも知れないし、ホト良い導きがある
といいなあと願うのは僕だけではないと思うのですが・・・。

ーともしびー

誰かのために
祈りの灯火・・・

明かりが
いっそう輝き
神秘的な感じがする

希望で
いっばいに
なるようで

賛美歌の
歌声に
応えるように
燃えている

祈りの灯火は
心の奥にまで
届いて・・・
胸がいっばいになる

そして何故か・・・
勇気がわいてくる

安らぎの中に

—安らぎの中に—

何かしら
信じるところに
身を置くって
安らぎませんか

心のなかに
自然に入ってくる
音や言葉があり

それを抵抗なく
受け入れるって
心地よい
何かがある

明日への夢と
希望と・・・
考えられない何かが

自分自身の
力と勇気が
何故か
自然と湧いてくる

かがやく日に

神にかかわって生きてなくても、出産など人生の一大事には宮参りも重要なことで、11月の宮参りについても感じるころがあるろう・・・と牧師先生は言う。
わたしはあなたたちの老いる日まで、白髪になるまで、背負って行こう。
わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す。
そんなこんなで・・・真面目くさいpoemです(笑)

－かがやく日に－

何事でも
落胆することなく
日々新たに
希望を持って
かがやく日にしたい

特に・・・
老いた今こそ
白髪を染めたりして

いつまでも
偽りの若いってことも
ありじゃないか

そして・・・
こんなことも
大事じゃないかって
思っているのです

人はひと

いろんな事には専門家がいるとの言葉が！
何故かこの部分が印象に残っているのです・・・。
やはり餅屋は餅屋・・・いい店には、いい人あり、企業は人なりって・・・？
インフラブル事故の修理ように・・・任せて、信じて委ねるってホト大切なこと
です。←意味不明かな(笑)・・・そしてpoemも意味不明・・・！？

一人はひと

人がいてのはなし
人はひと

仕事とはいえ
気持ちのこもった
仕事って
心豊かになる

いい店には
いい人あり

いい恋人同士には
いいしあわせあり

善はひとなり
信じて任せて
善となりぬかな

道行けば

聖書の中のリディアという女性はヨーロッパ大陸の女性クリスチャン第1号で強かな人である。洗礼を受けたその日に使徒パウロの一行と対等に交渉し、自分の信仰に敬意を払わせているのだ。・・・ただ者じゃない。

リディアの女性同様に信仰に生きる人はかくあるべしと言うべきであろう・・・と牧師先生は話を結ばれた。

それとキリスト教は出会いを大切にすらしく、福音の講義を1年間学んだとの事であった。とりとめのない内容になってしまいました。

何かいつもより拙いpoemになったようです(笑)

—道行けば—

道行けば・・・

途方に暮れることもある

しかししかし

あきらめなければ

解決するだろうし

時間にゆとりあれば

もっと良い方法もあろう

失望はあきらめとなり

先へは進むことができない

今日のことは

明日が解決してくれる

困難なことでも

前にむかって

進んでさえいれば

すべてが解決する

昔はこうだった

そうそう賛美歌377番の1の終わりによこしまな企てもて戦いを挑む
・ ・ とあるのですが、よこしまな=邪な・ ・ と書くのを初めて知りました(笑)
何かと・ ・ いくつになっても勉強です(笑)
何かしら昔のことを思い出しましたってことで変なpoemになりました。

ー昔はこうだったー

右向けと言ったら
右を向き
左向けと言ったら
左を向き

前を見よと言ったら
前を見て

誰も指図する人が
いなくなったら
もう
めちゃくちゃ
何処へ行くやら

やはり
誰かが
指図しないとね

3月の詩

－3月の詩－

花々の蕾は開き
野の草は
地表に顔を出し始め

山や川は
自然の色合いを
さあさあどうだと
言わんばかりに
見せ始めている

皆がいっせいに
春が来たよと
声をあげて
春を賛美する

春の暖かい風が吹き
乙女らに
恋の始まりを伝える

まことに
良き季節に・・・
そして
春の歌声が
聞こえてくる

そよ風のささやき

ーそよ風のささやきー

小さな・・

かすかな声

耳元で愛をささやく

そんな気がしている

一度は体験したい

神の愛の声も

大好きな人の声も

でも・・

夢の中なのだ

現実にあってほしい

願いは・・

願いであっても

早くって

思ってしまう

そよ風が吹くと

真っ先になって

耳をすましている

僕がいるのです

自分らしさ

－自分らしさ－

「き」のところ

探ってみた

虚栄・・・みえ

狭量・・・気が小さい

享楽・・・楽しみを味わう

狂乱・・・心が狂い乱れる

虚言・・・うそ、そらごと

協和・・・仲良くする

極点・・・ゆきづまり

許諾・・・聞き入れる

許容・・・許すこと

虚心・・・わだかまりのない

巨利・・・大きい利益

気力・・・元気

まだまだ多くの

「き」のつく言葉

はたして・・・

自分らしさが何処にあるだろうか？

未知の土地

賛美歌289の・・みどりもふかき若葉の里、ガレの村よ汝がちまたを、
こころ清らに行きかいつつ、そだちたまいし人を知るや・・パイ°ルガンの
音が何故か胸に響きます。

♪みどりも深き・・♪の始まりを聞くと・・嗚呼ふるさとは、お元気ですかって
つつい叫んでみたくなり、愛しきふるさとを想うのです。

そして、月に一度はふるさとを訪ねてはいるのですが、やはり生を得た所
であり、育ったふるさとは空気が美味しいです←意味不明！(笑)

そんなこんなで・・変なpoemに？

—未知の土地—

石だたみのオランダ坂
迷い込んだ路地の奥に
ひときわ目立つ洋館

そして浦上天主堂に
平和公園とオランダ風が
ひとつになった

ここは長崎・・
人から聞いた話だ
行ったことのない
未知の土地だから

訪ねてみたい
夢の国なんだ

果たしていつ
行けるのやら
旅っていい言葉だ
僕の旅は・・
いつから始まるのだろう

自分に負けない

ほんと・・・行き着く先にたどり着くまでは何事にも持ちこたえるだけの忍耐と勇気が必要なのですよね！

嗚呼・・・まだまだ未熟ゆえに、いろいろな人達の支えを貰って頑張って行かなければと思うのです・・・。

皆さんにも・・・平安がありますように！！

そうそう・・・自分に負けないようにと思ってるこんなpoemに？

ー自分に負けないー

なけなしの金で
最後であろう
好きなことを
するのもいい

死ぬほど辛いことを
一度体験すると
そう思ってしまう

それで満足するなら
そうしなさいって
あなたは・・・
言ってくれるだろうか

何事も
自分のせいなんだ
人のせいには
したくない

いつも
そう思って
いるだろうか

自分に負けないために
結局は・・・
すべて自分の

責任なんだと
思っている

5月の風は

－5月の風は－

新緑の薫風が吹き
緑色した・・・k a z e
若い匂いがする

4月も終わり
心踊る季節が
やってきた

軽装な装いの
大好きな君は
ミニワンピース姿

裾が
風に揺れて
風と戯れている

ランランランっと
口ずさむほど・・・
心地よい季節

5月の風は
いつも僕の気持ちを
楽しくしてくれるのだ

祈り

poemがなかなか思い浮かばず・・・こんな拙いものに！
次回頑張ります・・・。

ー祈りー

愛する人の
幸せのために

1日が平安で
明日も続きますように
そして・・・
平和が続きますように

貧しくても・・・
充実した日で
ありますように

小さな人生
光に満ちていついつまでも
そうでありますように
・・・アーメン

続・・・祈り

ー続・・・祈りー

見よ・・・

陽の昇るところを

明日も

また陽が昇る

そして

同じような陽はないのだ

その日その日に

輝きや

陽入る角度が違う

祈り・・・

今週もまた

何故か祈っている

陽の当たらない日が

ないって事を

分かってるのに

だから・・・

祈っている

今日も明日も

祈りって大切なんだ

懐かしき頃

－懐かしき頃－

突然に思い出して
懐かしく思う
いろんな昔の出来事

不思議なもので
何故か・・・
無意識に浮かんでくる

そうそう
あの時はこうだった
ああだったって

そして
また忘れてしまって
今度は思い出せないんだ

何だか今と比べて
ゆったりと
時が流れていたような

そして必ず思うことは
あの頃は・・・
いろんな面で
良かったなあって

おわりに

おわりに

懐中時計の指針が動く音・・コツコツ・・コツコツ、そして懐中時計の上蓋を開けたとたんにあっそうだ、そうだったと不思議にいろんなことを思い出したりする。アイデアというか閃く時ってしょっちゅうじゃないのだけれど思いついたらすぐにでもメモっておかないとみるみるうちに記憶から消えてしまうものである。

懐中時計、今もなお大好きな女性と一緒にいるようで大切にしているのである。だから何らかの原因で遅れたり、止まっていたりしてはいないかと気にかけている。そして詩を書く僕にとっては必需品なのである。そうしていつも一緒にいるだけで詩が浮かんでくるのだ。皆さんはほんとかいなと思っていらっしゃるでしょう？
ほんとですよ・・でもいい詩集が出来ているかどうかは別の話である。

第7集の詩集：僕の懐中時計の最終章は少しばかり宗教的なメッセージを含めた poem になってはいますが不都合な方はスル-なさっていただければと考えている。

最後になりましたが、こうして公開の場所を提供下さったパブー様そしていろいろと励ましの言葉をいただいた知人、友人、関係者の皆さんに感謝申し上げます。

を

そよ風が心地よい自宅のある丘および詩の編集

行った四国遍路の地にあるうどん県の実家にて

2018年6月 飛鳥 圭

詩集 僕の懐中時計

<http://p.booklog.jp/book/122460>

著者：飛鳥圭

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/sanbika21/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/122460>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト